

公益財団法人 がんの子どもを守る会

Children's Cancer Association of Japan

がんの子どもを守る会研究助成<2025年度募集要項>

(注) 従来「治療研究助成」として募集してきたが、患者家族会である「がんの子どもを守る会」の研究助成である趣旨をより明確にするために、2024年度より「がんの子どもを守る会研究助成」と名称を変更した。

1. 目的

公益財団法人がんの子どもを守る会研究助成金は、子どもたちを小児がんのさまざまな脅威から守るため、その予防、早期の適切な診断、治療成績の一層の向上と後遺症のない治癒、トータルサポートによるよりよい療養生活などの実現に寄与する調査研究の促進を目的とするもので、原資は全て寄付金に依る。

2. 資格及び対象

1. 国内における国・公・私立の大学その他の医療機関及び研究機関に属する医療従事者や教育・研究機関に属する教育・研究関係者の個人若しくはグループによる国内に成果を還元する調査・研究等を対象とし、助成金の目的に沿うものとする。
2. 本会治療研究委員（治療研究委員会設置規程第3条第1項に基づく）は、自ら研究代表者として応募できないこととする。

3. 募集課題

小児がんに関する研究のうち以下1～3のうちいずれかを選択

『小児がんに関する研究』

1. 小児がん経験者に関する研究
2. 小児がんに関するトータルケアの研究
3. 小児がんに関する基礎系・臨床系の研究

基礎系・臨床系の研究はもとより、患者家族会であるがんの子どもを守る会の助成制度であり小児がん経験者及び小児がんに関するトータルケアについても、積極的に応募することを期待するものである。

4. 助成件数と金額

20件～25件程度

（1件につき10万円～100万円程度：助成総額900万円＊助成額は審査委員会にて決定）

5. 助成期間

2025年10月1日～2026年9月30日 *原則として期限を超過しての用途は認めない(残額は返金とする)。

6. 応募方法

所定の様式(当会ホームページよりダウンロード)により応募書類を作成し、PDFファイル形式でメールに添付し送付すると共に、押印のうえ原本1部を当会へ送付すること。

7. 募集期間及び締切り

募集期間：2025年4月1日～2025年6月30日

<応募の締め切り>

1. PDFファイル形式でメールに添付し送付：2025年6月30日必着
2. 原本の郵送：2025年6月30日消印有効

8. 提出先

〒111-0053 東京都台東区浅草橋1-3-12 公益財団法人がんの子どもを守る会
がんの子どもを守る会研究助成担当宛て

電話：03-5825-6311 メール：jimu@ccaj-found.or.jp

※応募確認のため必ず申請書をメールに添付し送付すること。

また、申請書原本は書留郵便など記録の残るもの以外は未達の責任を負いかねます。

9. 選考方法

本会治療研究委員会の審議を経て理事会の承認のうえ決定する。

10. 選考結果の通知

2025年9月末までに、応募したすべての研究代表者に結果を通知する。

11. 報告及び研究成果の発表

1. 助成金の交付を受けた研究者は、単年ごとに定められた期日までに、所定の様式により研究報告書を提出する。報告書の公表権利などは公益財団法人がんの子どもを守る会に帰属する。
2. 助成金の交付を受けた研究者は、研究終了後、翌年度のがんの子どもを守る会公開シンポジウムにて研究成果を一般公開する。報告のスタイルや書式については採択後に通知する。
3. 助成金の交付を受けた研究者が、研究の結果又は経過の全部若しくは一部を刊行し、又は書籍、雑誌等に掲載する場合は、本会より助成金を受けた研究である旨を明記する。

12. 経理報告

交付を受けた研究者は、助成期間終了後1ヶ月以内に所定の様式により決算を含む報告書を提出する。

13. 倫理審査について

助成が決定した場合は、必ず何らかの倫理審査機関の承認を得ることを原則とし証明の写しを求める。倫理審査の状況は申請書にチェックを入れること。なお、動物実験の場合は、申請書の確認欄にチェックを入れること。

14. その他

1. 助成金は、申請者（研究代表者）の責任で管理すること。
2. 助成金は、申請者（研究代表者）の属する施設の都合であっても、助成金名目以外の受け取り方法は認めない（例：寄付金名目での受け取りは認めない）。
3. 助成金管理に要する間接経費は認めない。
4. 同一の申請者（研究代表者）からの複数申請は不可とする。
5. 一般公開用（当会公開シンポジウム）に提出した報告書については、当該助成金の支援者（寄付者）への報告及び、寄付の依頼のために広く活用することがある。

15. 2024 年度の助成決定研究一覧（敬称略：順不同）

2024 年度

氏名	研究名称
藍原 康雄	小児松果体部腫瘍患児に対する神経心理学的支援の導入～あらゆる合併症を視野に入れた長期フォローアップ手順の確立を目指して～
青山 貴洋	日本における小児放射線治療の普及率と地域差の解明：国際的視点からの検討
生田 国大	小児・AYA 患者のparasports参加支援と QOL 向上に向けた取り組み
井上 健	小児がんのグループスタディの基盤となる小児腫瘍病理診断に関する資料の作成および小児腫瘍病理診断の教育研修活動
梅田 雄嗣	ダウン症候群における胚細胞腫瘍発症メカニズムの解明
大植 孝治	小児腎腫瘍に対する新規治療法開発のための国際臨床試験 UMBRELLA-J
金沢 英恵	小児がん患児の Well-being を支えるファシリテッドッグの役割 ～唾液 α -アミラーゼによる歯科治療時のストレス評価～
川久保 尚徳	神経芽腫モデルマウスを用いた ICG ナビゲーション手術の最適化 -臨床応用に向けて-
工藤 節美	小児がんの子どもと家族の在宅療養を支えるための往診医と訪問看護師の連携

慶野 大	小児・思春期女性がん患者の妊孕性温存を志向して行われた卵巣組織凍結保存切片における droplet digital PCR 法を用いた微小残存病変の評価
小池 隆志	小児がん入院療養中の学童に対する質問票を用いた辛さと悩みの共有とその解決
小幡 裕希	小児神経芽腫の小胞体領域から発信されるがんシグナル～ALK チロシンキナーゼのオルガネラ停留機構, その理解に基づく新機序阻害法～
小堀 宅郎	細胞内の”足場”を標的とした免疫チェックポイント分子の阻害に基づく神経膠芽腫に対する新規がん免疫療法の開発
佐伯 勇	「VR はたらく細胞」制作と患児を対象とした臨床研究
坂口 大俊	小児・若年成人世代の再発難治性 B 細胞性急性リンパ性白血病に対する同種造血細胞移植後のブリナツモマブ維持療法の再発予測バイオマーカーの確立
白坂 真紀	長期入院中の「こどものよろづ相談」を引き受ける多職種支援のアクションリサーチ～こどもが安心して遊び学習できる場の保障を目指して～
佐治木 大知	エラー修正次世代シーケンス法による若年性骨髄単球性白血病における低アリアル頻度変異の検出と微小残存病変解析への応用
末松 正也	CAR-T 細胞と HMG-CoA 還元酵素阻害薬の新規併用療法の開発
高田 尊信	食事性 AGEs が引き起こす口内炎に対する半夏瀉心湯エキスの緩和・予防効果
津村 悠介	本邦の小児悪性腎腫瘍の発症機序、病態の解明
徳村 亜依	小児がん患者の療養生活を支える、遊びを通じた看護ケアの探索的研究
西村 明紘	新規プロテオーム・ネットワーク解析を駆使した神経芽腫の治療標的探索
西村 雄宏	神経芽腫に対する抗 GD2 抗体及び iPS 細胞由来 NKT 細胞を用いた免疫療法開発
西村 範行	高リスク神経芽腫患者における微小残存病変 (MRD) 評価法の開発
原 (野上) 愛	L-アスパラギナーゼアレルギーならびに薬剤耐性に関わるサイトカインプロファイルの解析
藤崎 弘之	難治性 B 前駆細胞性急性リンパ性白血病に対するブリナツモマブ併用化学療法の単施設臨床試験 (ER-Blina 試験)
福井 郁子	就労期の小児がん経験者への健康行動の改善における AI を活用した自動コーチングの構築

福岡 講平	小児脳腫瘍における髄液 ctDNA メチル化解析による低侵襲分子診断法の開発
福島 絃子	小児がん患者の陽子線照射後の消化管出血・潰瘍発生の解析、新たなバイオマーカー探索
細谷 要介	一般総合病院の機能を活かした小児がん経験者の人間ドックシステムによる晩期合併症と QOL の生涯コホート調査と自立的な健康管理能力の育成～他機関との連携
三村 和哉	神経芽腫骨髄転移モデルマウスを用いた骨髄転移メカニズム解析と間葉系幹細胞を用いた腫瘍特異的ドラッグデリバリーシステムによる新規免疫治療開発
宮城島 沙織	小児がん経験者のサルコペニアの実態調査ならびに身体活動と心身機能の関連
森 健	標準的化学療法を行った進行期小児リンパ芽球性リンパ腫の予後因子探索を主目的とした多施設共同研究 JPLSG-ALB-NHL-14
渡邊 潤	小児脳幹部腫瘍に対するエピゲノム標的療法

※継続研究についても年度毎に申請が必要となります。

■お問い合わせ

公益財団法人がんの子どもを守る会 がんの子どもを守る会研究助成担当

電話：03-5825-6311

E-mail：jimu@ccaj-found.or.jp

以上